

食品ロス

飢餓に苦しむ貧困層がいる一方で、食べられもせず廃棄される食品。限りある資源の無駄使いや、格差社会の矛盾を少しでも是正するために、世界規模で検討が行われています。

学会誌第31巻第4号市民特集では、こうした食品ロスを国連で提唱されたSDGsと2019年に日本で制定された「食品ロス削減推進法」を踏まえ、小売・消費段階の食品ロスに焦点を当て、国内外の食品ロスの実態把握の取り組み状況やSDGsターゲット12.3をめぐる議論を解説・紹介しました。

『循環と暮らし』では、学会誌で扱ったテーマを、別のアングルで捉えなおしました。第1部では、人々の英知を駆使した、人にも食べ物にも優しい食品ロス削減となる具体的なアイデアを紹介しました。第2部では、その背景となる食品ロスの現状と課題について解説しました。

第1部：ひょっとして、その思い込みが食品ロス促進になっている？ では、日々の暮らしの中で当たり前になっていたことについて、焦点を当てて考えてみました。たとえば、冷蔵庫に入れておけば大丈夫？ 流行っているお店には品数多くて新しいものがある？ お金を掛けないと美味しいものが食べられない???

第2部：食品ロスの現状と課題
では、食料のロスはどこで起きているのかを検証していきます。生産地で、流通過程で、家庭で、それぞれの場面で起きている食品ロス。人々はさまざまな工夫をして、この問題に取り組んでいます。

どうぞ、興味のあるページからお読みください。